



⑧サマー世田谷ふるさと区民まつり●上用賀2-1(馬事公苑)●バス農大前下車
夏の緑を背に真赤なカンナの花が咲く8月初旬、馬事公苑を舞台に「ふるさと区民まつり」が開かれる。郷土芸能、ミニS.L.、おみこし、盆踊りや阿波踊りに馬の曲芸や試乗も加わり、大変な人気を呼ぶ。植木市や数えきれないほどの出店もたち並んで世田谷の一大夏の風物詩となった。



⑨馬事公苑界隈●上用賀2-1●バス農大前下車
東京オリンピックの馬術競技の会場になったことで有名。背の高いケヤキ並木をくぐって入る苑内は広大で、多くの樹木や草花が季節をいろどる。雑木林を散策するとかつての武蔵野の姿が思い浮かぶ。ケヤキ並木の道は広場として整備され、また一つ魅力を加えた。



⑩用賀観音の無量寺●用賀4-20-1●新玉川線用賀駅下車
境内に一際高く大イチョウが茂る。用賀観音と呼ばれるのは十一面観音像で、品川の浜で漁師の網にかかったのがここに祀られるようになったという。かつては観音講が組織され賑わったが、今は静かな境内だ。昼下り近くの小学校のチャイムがのどかに響く。



⑪桜並木の香川と緑道●深沢1丁目～8丁目
香川の下水道化のために川の上をふさぎ緑道化した。駒沢通りから上流はまだ川の流れが見える。川の流れに沿って桜並木があり、玉川通りまで続いている。遊歩道になった神明橋から下山橋にも桜並木が見られるが、これは川の土手の両側に植えられた桜がそのまま残ったもの。川の土手沿いの桜はかつて世田谷の春の風物詩だったが、今は区内各所で緑道沿いの桜と変わって世田谷に春の訪れを告げる。



⑫駒沢オリンピック公園●駒沢公園●T E L 421-6121●新玉川線駒沢大学駅下車
東京オリンピックの第二会場として整備され、オリンピック終了後は都の総合運動場となっている。緑に囲まれた公園で、中央広場には、五重塔を幾重にも重ねたような記念塔がそびえ、その周りに屋内体育館、陸上競技場がある。多くのスポーツ施設が整い、緑に包まれた休養地や児童遊園もある。家族そろって楽しめる憩いの場だ。



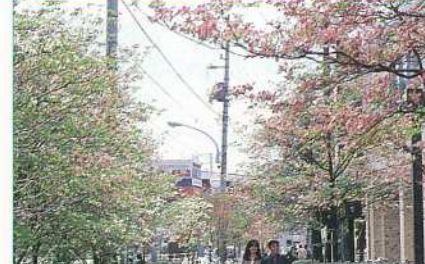
⑬駒沢緑泉公園●駒沢3-19●T E L 410-7386●東急バス新町1丁目下車
人工芝と噴水と緑の公園、樹林園には落葉樹、常緑樹、灌木などが植えられた丘や川がつづく。素足の子ども達が小川の流れて入って遊び、幼い子は人工芝の上をのびのびとかけまわる。都市生活に欠かせないものとして公園空間はある。



⑭上野毛五島美術館●上野毛3-9-25付近●T E L 703-0661●大井町線上野毛駅下車
実業家として知られている故五島慶太郎氏が50年間にわたり収集した古美術品が収蔵展示されている。美術館の建物は美しい和風建築で、屋根の斜面に広がる自然のままの庭園に野仏を配している。美術鑑賞のあとの散策に四季それぞれの趣きを見つけることができる。



⑮谷沢川桜と柳の堤●用賀1丁目～中町5丁目
川沿いの桜が途切れると柳がつづく。悲劇の伝説をもった「姫の滝」もあり、下流は等々力溪谷へと達する。地元の人たちのいき届いた手入れが光る。まちなかのコミュニティ景観だ。



⑯はなみずき並木の二子玉川界隈●玉川3丁目玉川通り周辺●新玉川線二子玉川園駅下車
まちのシンボルとなっている並木道。地元の熱意が作りだした景観だ。桜の花の終わるころ、ハナミズキの赤い花が咲き始める。五月に花みず木フェスティバルも行なわれ、まちに初夏の到来を告げる。



⑰多摩川土手の桜●玉川1丁目～野毛3丁目玉堤通り沿い●東急バス明神池前下車
東京で最も早く咲く桜として知られる。ありあまる春の光を全身に浴びるからだろうか。風に散る満開の桜が川辺に広がるタンポポのじゅうたんと一緒に多摩川堤のどかな春の風景をかたちづくる。



⑱多摩川沿いの松林●玉川1-1付近●新玉川線二子玉川園駅下車
黒松の林は多摩川の堤に伸びる代表的な風景だったが、今はもうこのあたりを残すのみとなった。川風に吹かれる松嶺が風流人たちを川辺に誘い、川魚の料亭が軒を連ねていたという。現在も料亭が一軒残っており、松林とともに当時の面影をとどめる。



⑲玉川台自然観察の森●玉川台2-30●東急バス玉川病院入口下車
環八沿いのビルの裏手にこんもりと緑の盛り上がった森がある。ここは密生した植物とともに昆虫や小鳥が共生している自然空間となっている。過密な都市の中に生きているこうした自然のスペースを大切にしたいものだ。

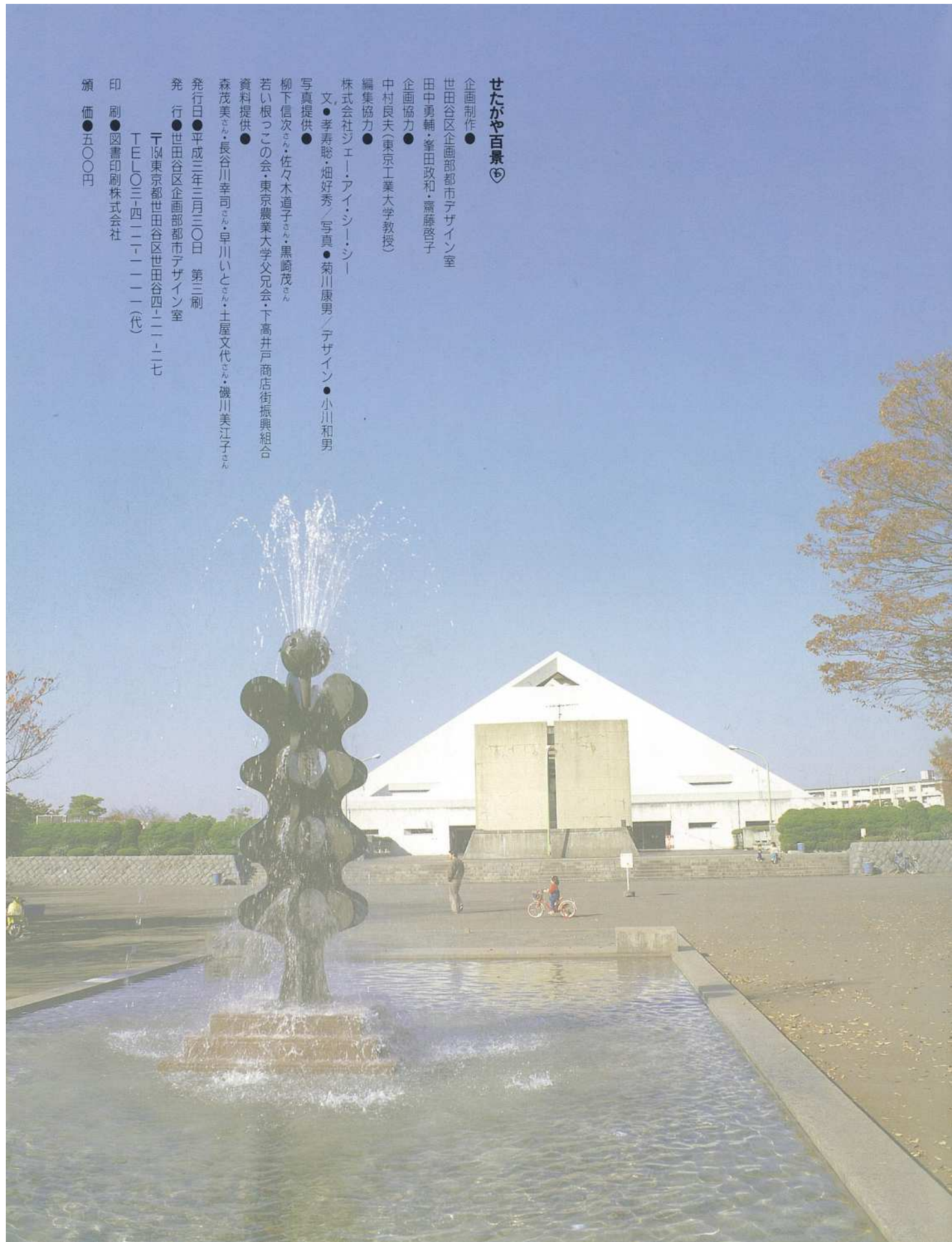


⑳環八アメリカ村●東名高速入口付近●東急バス玉川病院入口下車
アーリーアメリカンスタイルの白い建物のレストラン群や住宅展示場が立ち並んでいる一角。誰いうともなくアメリカ村と呼ばれている。車社会に忽然と出現した都市の新しい名所だ。週末には湘南海岸へ行く若いサーファーや家族連れで賑わう。



㉑瀬田の行善寺と行善寺坂●瀬田1-12-23付近●新玉川線二子玉川園駅下車
急勾配の行善寺坂を登りきったところに行善寺がある。昔、寺の境内からは多摩川の眺望が開け、行善寺八景とうたわれた。行善寺坂はもと大山道の一部だった道で、この街道は八十八坂七曲りといわれるほど起伏の多い地形を通過していた。





せたがや百景

企画制作

世田谷区企画部都市デザイン室

田中勇輔・峯田政和・齋藤啓子

企画協力

中村良夫(東京工業大学教授)

編集協力

株式会社ジェー・アイ・シー

文・孝寿聡・畑好秀 / 写真・菊川康男 / デザイン・小川和男

写真提供

柳下信次さん・佐々木道子さん・黒崎茂さん

若い根っここの会・東京農業大学父兄会・下高井戸商店街振興組合

資料提供

森茂美さん・長谷川幸司さん・早川いとさん・土屋文代さん・磯川美江子さん

発行日 ●平成三年三月三〇日 第三刷

発行 ●世田谷区企画部都市デザイン室

〒158 東京都世田谷区世田谷四二二一七

TEL 03-3411-1111(代)

印刷 ●図書印刷株式会社

頒 価 ●五〇〇円

百景INDEX



⑧ サマー世田谷ふるさと区民まつり ● 上用賀2-1(馬事公苑) ● バス農大前下車
夏の緑を背に真赤なカンナの花が咲く8月初旬、馬事公苑を舞台に「ふるさと区民まつり」が開かれる。郷土芸能、ミニSL、おみこし、盆踊りや阿波踊りに馬の曲芸や試乗も加わり、大変な人気を呼ぶ。植木市や数えきれないほどの出店もたち並んで世田谷の一大夏の風物詩となった。



⑨ 馬事公苑界わい ● 上用賀2-1 ● バス農大前下車
東京オリンピックの馬術競技の会場になったことで有名。背の高いケヤキ並木をくぐって入る苑内は広大で、多くの樹木や草花が季節をいろどる。雑木林を散策するとかつての武蔵野の姿が思い浮かぶ。ケヤキ並木の道は広場として整備され、また一つ魅力を加えた。



⑩ 用賀観音の無量寺 ● 用賀4-20-1 ● 新玉川線用賀駅下車
境内に一際高く大イチョウが茂る。用賀観音と呼ばれるのは十一面観音像で、品川の浜で漁師の網にかかったのがここに祀られるようになったという。かつては観音講が組織され賑わったが、今は静かな境内だ。昼下り近くの小学校のチャイムがのどかに響く。



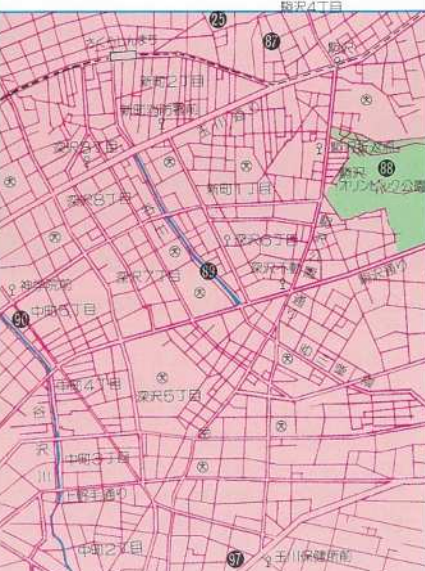
⑪ 桜並木の香川と緑道 ● 深沢1丁目~8丁目
香川の下水道化のために川の上をふさぎ緑道化したのが、駒沢通りから上流はまだ川の流が見える。川の流れに沿って桜並木があり、玉川通りまで続いている。遊歩道になった神明橋から下山橋にも桜並木が見られるが、これは川の土手の両側に植えられた桜がそのまま残ったもの。川の土手沿いの桜はかつて世田谷の春の風物詩だったが、今は区内各所で緑道沿いの桜と変わって世田谷に春の訪れを告げる。



⑫ 駒沢オリンピック公園 ● 駒沢公園 ● TEL 421-6121 ● 新玉川線駒沢大学駅下車
東京オリンピックの第二会場として整備され、オリンピック終了後は都の総合運動場となっている。緑に囲まれた公園で、中央広場には、五重塔を幾重にも重ねたような記念塔がそびえ、その周りに屋内体育館、陸上競技場がある。多くのスポーツ施設が整い、緑に包まれた休養地や児童遊園もある。家族そろって楽しめる憩いの場だ。



⑬ 駒沢緑泉公園 ● 駒沢3-19 ● TEL 410-7386 ● 東急バス新町1丁目下車
人工芝と噴水と緑の公園、樹林園には落葉樹、常緑樹、灌木などが植えられた丘や川がつづく。素足の子も達が小川の流れに入って遊び、幼い子は人工芝の上をのびのびとかけまわる。都市生活に欠かせないものとして公園空間はある。



⑭ 上野毛五島美術館一帯 ● 上野毛3-9-25付近 ● TEL 703-0661 ● 大井町線上野毛駅下車
実業家として知られている故五島慶太氏が50年間にわたり収集した古美術品が収蔵展示されている。美術館の建物は美しい和風建築で、崖線の斜面に広がる自然のままの庭園に野仏を配している。美術鑑賞のあとの散策に四季それぞれの趣きを見つけることができる。



⑮ 谷沢川桜と柳の堤 ● 用賀1丁目~中町5丁目
川沿いの桜が途切れると柳がつづく。悲劇の伝説をもった「姫の滝」もあり、下流は等々力溪谷へと達する。地元の人たちのいき届いた手入れが光る。まちなかのコミュニティ景観だ。